

■第2回 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）策定委員会 現地視察報告■

日時 : 平成20年8月7日（木）16時30分～18時45分

視察場所 : 境南コミュニティセンター、武蔵川公園、都立武蔵野中央公園、武蔵野総合体育館

出席者 : 委員 本村清人、守屋るり子、島本康子、本郷伸一、赤萩恵子、和田明子、後藤信義、
古矢武士、茨木信、金子俊治

欠席委員 : 河上一雄、大町洋

事務局 : 担当課職員 西川和延（生涯学習スポーツ課副参事）、茂木孝雄（生涯学習スポーツ課
スポーツ振興係長）

: コンサルタント 黒崎晋司（株式会社 地域計画建築研究所）、木藤直隆（同左）

－ 視察報告 －

主に以下のスポーツに関連する施設の視察をおこなった。

□境南コミュニティセンター

- ・境南コミュニティセンターには、475 m²の体育室があり、多くの方が利用している。更衣室もある。
- ・境南地区は、以前から卓球の人気がある。現在もたくさんの利用があるため、卓球台も多く置かれている。
- ・小学生の利用は午後5時まで、中学生の利用は午後6時まで。小中学生が夜間利用する場合は、保護者の同伴を必要とする。

□武蔵川公園

- ・施設概要 : 公園面積 1,625 m²。ボール遊びスペースとドッグラン施設がある。
- ・ボール遊びスペースは、約 788 m²（人工芝の面積）、コートの大さは 25m×15m。
- ・使用上の注意 : 利用時間は、9時から17時（時間厳守）。グラウンド内はでは硬いボール（硬式球やゴルフボール等）や道具類（バットやゴルフクラブ等）は使用不可。中学生以上の団体利用は不可等。
- ・朝は親子でキャッチボールなどの光景が見られる。時間的には夕方の利用が多い。

□都立武蔵野中央公園

- ・施設概要 : 開園面積 100,898.20 m²。原っぱ、スポーツ広場、風を見る丘、月待台、遊具広場、テニスコート（4面）、ゲートボール場（2面）、花壇、バーベキュー広場がある。
- ・スポーツ広場は、武蔵野市が管理している。更衣室は無い。土日はほとんどの時間利用されている。

□武蔵野総合体育館

- ・施設概要 : メインアリーナ、サブアリーナ、ランニング走路、軽体操・ダンス室、卓球室、柔道場、剣道場、弓道場、トレーニング室、体力測定室、会議室・研修室、幼児室、図書・AVコーナー。
- ・財団法人武蔵野スポーツ振興事業団が管理している。スポーツ振興事業団の主な事業は、スポーツ振興事業（スポーツ教室等の企画・運営）と野外活動事業、情報提供事業、施設管理事業。

■第2回 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）策定委員会 会議録■

日時 : 平成20年8月7日（木）19時～21時
場所 : 武蔵野総合体育館視聴覚室（3階）
出席者 : 委員 本村清人、河上一雄、守屋るり子、大町洋、島本康子、本郷伸一、赤萩恵子、
後藤信義、古矢武士、茨木信、金子俊治
欠席委員 : 和田明子
: 庁内ワーキングチーム 柴田直子、鈴木早代子、大久保宏
事務局 : 担当課職員 西川和延（生涯学習スポーツ課副参事）、茂木孝雄（生涯学習スポーツ課
スポーツ振興係長）
: コンサルタント 黒崎晋司（株式会社 地域計画建築研究所）、木藤直隆（同左）
傍聴人 : 2人

－ 議事要旨 －

□開会

□資料確認

本日の次第、「資料1 武蔵野市スポーツ市民意識調査報告書からみた主な課題」「資料2 人口統計等からみた武蔵野市の特色」「平成19年度スポーツ関連事業一覧」「第1回策定委員会会議録」

□会長挨拶

委員長 : 本日の策定委員会では、事務局より出された課題等について、アイデアも含めたご意見をいただきたい。

□議事

(1) 武蔵野市スポーツ市民意識調査報告書からみた主な課題（資料1）

委員長 : 資料1について事務局の説明をお願いしたい。そのうえで、質問等の時間をとりたい。

事務局 : 「資料1 武蔵野市スポーツ市民意識調査報告書からみた主な課題」について、主に以下の内容を説明した。

- ・各項目について、課題として考えられる内容と検討すべき視点など含め記述した。
- ・「スポーツの頻度」、「スポーツをしない理由」、「スポーツの内容について」、「一緒にスポーツをする人」、「スポーツをする場所・施設」、「スポーツクラブ・教室・団体・部活動への参加状況」、「スポーツ活動の満足度」、「イベント等への参加」、「スポーツ活動の評価」、「地域スポーツ振興にとって今後特に重要だと思う影響や効果」、「体育指導委員、東京国体等の認知状況」について、課題を抽出した。

委員長 : 「資料1 武蔵野市スポーツ市民意識調査報告書からみた主な課題」についてご質問等ありましたらお願いしたい。

委員 : 2つ質問したい。

- ① 今回の市民意識調査で出された結果からみた武蔵野市の特徴は何か教えてほしい。
- ② 中学生について、スポーツ系の部活動に入っている学生に聞いたものと理解して良いか。文化系の部活動に入っている学生も含めてアプローチしていくということか。

事務局：①調査の結果は、他市と比べてもそんなに変わらないと思うが、市のスポーツ施設や情報、施策についてはそれぞれ要望として特色が出ていると思われる。

②公立の中学校6校の中学2年生全員を対象に調査した。調査自体がスポーツに関するものであり、この場合の部活は運動部で間違いないと思う。一般的な傾向として、小中学校時にスポーツに携わっている場合、一時期スポーツから離れても大人になってからスポーツ活動に復帰する可能性が高いと推測されることから、文化部の学生でも何らかの形でスポーツに親しんでもらいたいと考えた。

委員：例えば、中学校で吹奏楽をやっている学生はかなり時間を割いている。学校体育もある。

事務局：当然、個々に重視するものの優先度の高いことがある。一律に文化部の学生を運動部という話ではない。むしろ、吹奏楽は、スポーツよりも心肺機能を高めることもあると思う。健康づくりの視点で、一般論として取組んでいきたいということでご理解いただきたい。

委員長：高校生については、どのような調査対象なのか。

事務局：市内に無作為抽出で300部配布した。回収数が96件で回収率1/3とどの世代より低い。

委員長：高校生の部活動比率が全国平均よりも低い。実態として低くなっているという印象を得た。また、女子の参加状況を上げていくことについては、全国的に体力の低下も傾向として挙がっており、課題だと思う。

この調査から全年齢を対象とする施策にはなと思うが、そのなかでどの年代を重視するのかということは今後の検討になると思う。

(2) 人口統計等からみた武蔵野市の特色（資料2）

事務局：「資料2 人口統計等からみた武蔵野市の特色」について、主に以下の内容を説明した。

- ・武蔵野市の特徴を検討するために近隣市区も含めてデータを整理し比較した。
- ・土地利用、人口・世帯、住まい方についてそれぞれ比較した。
- ・土地利用は、宅地面積が近隣市のなかでも高い割合をしめている。公園等の区分には運動場も含まれている。
- ・人口と世帯について、年少人口について、東京都の人口推計をみると、他と比べて低い。高齢者人口については、平成12年では近隣市と一緒。ほぼ同じようなカーブを描いており、それほど高くない。高齢者世帯について、平成17年の現状を示している。
- ・住まい方について、一般世帯では、共同住宅の割合が高く、高齢者世帯の住まい方では、戸建て6割近く占めている傾向が見られる。

委員長：事務局からの説明について、ご質問やご意見等をお願いしたい。

副委員長：高齢者に関する統計データだけでなく、共同住宅に住む人の家族構成や働く世代について、どこにターゲットをおくのか検討する際の参考となるデータがあれば紹介してほしい。

事務局：副委員長のご意見の通り、働く世代の住まい方やどういう生活スタイルで暮らしているかについては、スポーツを身近にしていける今回の振興計画の一つの大きなポイントだと思う。ただ、そこにターゲットしぼったデータについて、収集できなかったのもので、今後、市の他分野の計画等で参考になるものがあればご提示させていただきたい。

副委員長：武蔵野市の場合、住んでいる地域によって違いがあるのではないかと。自分の家の周りの場合、2、3代続けて住み続けており、基本的に住民の層が変わっていない気がしている。

地域差があると思う。働く世代が、どの程度市民意識を持っているのか、アパート・マンションの単身者などどこまで目配りしていくのか検討する必要もあると思っている。

また、少子化の流れのなか、学校の統廃合なども今後考えられるのではないかな。子どもと体育施設との関係についてある程度念頭においておく必要があると思う。

委員：運動施設については、施設の立地している地域、施設の規模とともに、その施設で可能な運動や施設の利用者についてある程度近隣市含めて比較できると良いと思う。今後、様々な形で仕組み等検討していく際に、まずスポーツをする場所があるのかなのか、他に場所を確保する必要があるのかどうか確認していく必要があると思う。

事務局：今回はあくまで統計データをもとに作成した。また、第1回策定委員会で提出した「資料2 他自治体の事例紹介」のなかで運動施設や公園についてわかる範囲で掲載させていただいている。むしろ、運動施設については、近隣市との比較よりも武蔵野市内でどのような使われ方をしているのか把握すること重要ではないかと思われる。

委員：市内の運動施設の利用状況も含めた物理的な課題と一緒にソフトの仕組みについて検討していくことができると良いと思う。

副委員長：地域ごとの運動施設の立地状況については、体育協会でも歴代の課題として挙げられており、地域差も出てくると思う。資料をつくる際にはどのように施設を活用していくかという視点で検討していただきたい。

委員：利用できる施設が近くにあることだけが良いということでもないと思う。

委員：府中市の場合、体育館的な施設は地域に点在している。武蔵野市の場合、施設をつくる際に敷地も予算の確保も難しいだろう。今後は、複合施設としてスポーツを組み込む必要があると思う。現状で考えると、既存のものを使うということが基本ではないか。例えば、コミュニティセンターや公共施設をうまく活用する視点が大事だと思う。地域の施設を活用し、あるスポーツをしたい人が何名かその施設に集まり、その施設に教えることができる人を派遣できるような視点での工夫ができると良い。地域にそのような活用ができる場所が点在していると良いと思う。

委員：2点ある。一点目に、新しい施設は必要ないと思う。これまでは多目的施設をつくる方向だったと思うが、今後は、専門的なスポーツを教えてくれる施設があったほうが良いと思う。やりたいと思っているスポーツができる場所が自分の地区に無くても、その場所に行けば教えてもらえるのであれば多少遠くても行くと思う。今必要なのは、どこに行けば何のスポーツができるかという情報だと思う。この施設では何ができるかという情報は必要だと思う。

二点目に、小さい時にスポーツをするかどうかで、大人になった時にスポーツをするかどうかは大きな違いが出てくると思う。サッカーやテニスだけでなく、スキーやスノーボードなど体験するスポーツは学校体育だけではできない。井の頭地区では、地域で教えることができる大人がボランティアをしている。その人たちが集まって「武蔵野市第一中学校フェスタ」という形でスポーツが体験できる日を一日設けている。このような施設や情報の分布図があるととても良いと思っている。

委員：「武蔵野市第一中学校フェスタ」は、スキューバダイビングや太鼓など、スポーツや文化の様々な体験学習で地域の方に先生になってもらい、ふれあうイベント。子どもにとって

は、きっかけづくりにつながっており、地域の大人とふれあう機会にもなっている。

委員長：他の地区では同様の取組みがあるのか。

委員：他の中学校では「武蔵野市第一中学校フェスタ」ほどの規模ではないが、授業の一環として取組んでいることはあると思う。

委員：小学校では、スポーツとして取組んでいるところはないのではないかと。地域で親子運動会などのような取組みはおこなわれており、運動する機会はあると思う。

委員：中学校までは運動部の部活動に入っているけれども、高校になるとどうしても部活動が専門的になりがちで、高校生になると部活動で運動する機会は極端に減ってくるのではないかと。試合の勝ち負けを競う競技スポーツだけでなく、楽しみでやるスポーツができる場があると思う。

健康づくり支援センターを通じて、健康づくりの集いを年３回おこなっている。市内の交通機関や市の公共施設にチラシを置いて宣伝しているが、見て来てくれる人は少ない。武蔵野市スポーツ・野外情報誌「DO SPORTS」もそうだが市はかなりの事業をやっているが、その情報が市民に伝わりきれていないと思う。健康づくり支援センターを知らない人も多い。事業によっては１０名の参加者を集めるだけでも大変なものもある。

委員長：武蔵野市は既にいろいろな事業に取り組んでいると思う。今ある施設をもっと有効に活用できないかということと、そのための情報提供が必要ということだと思う。今ある施設で実施していることを情報としてどう提供できるかが大切だと思う。

高校生の部活動率が低いのは確かである。競技志向と楽しみ志向とあり、楽しみ志向の人をどう巻き込めるかという視点も大切。そのなかで女子に対する取組みも必要だと思う。

委員：体育指導委員を知らない人が多い結果がアンケート調査結果から出ている。武蔵野市としては、スポーツ振興していくためにスポーツ指導などどのような人的対応をおこなっているか教えてほしい。

小中高は国の施策等である程度対応できるので、成人が課題だと思う。リタイアの人口も増えてきており、リタイア予備軍もいる。成人で仕事していれば忙しくスポーツすることには大変だと思う。リタイア予備軍とリタイア組にとっては、いきがいという視点から、何かきっかけがあれば参加したいという高齢者は多いと思う。一番重要なのは成人だと思うが、成人でも本当に働く世代、参加できる世代とそうでない世代とあるのではないかと。

委員長：どの世代を重点的に考えるか。成人で言えば４０代、５０代なのか、２０代、３０代なのか。子どもからスポーツに接していることが大切と考えれば、運動をあまりしない子どもたちに対して重点的な取組みを進めていくほうが良いのかどうか。

委員：武蔵野市では、高齢者の増加率はそれほど高くないのか。全国的な団塊世代などの伸びと比べると緩やかな気がする。ターゲットは６０歳以上の高齢者だと考える。

委員：子供の団体スポーツなど、地域の人とのふれあいは大切だと思う。小学校に上がる前から地域で経験しておくことは子どもにとっても大切。今は、道路で遊ぶ子どもはいない。幼児の頃からスポーツクラブなどで団体生活に触れさせる必要があるのではないかと。

副委員長：スポーツ振興事業団でいろいろな子ども向けの事業をやっている。体育協会でも同じように施策として、ジュニアの育成、競技人口を増やすための機会はたくさんある。子どものスポーツをしない理由に「勉強で忙しい」などのしていないの回答が全国平均（全日本Ｐ

TA連合会の調査)と違う傾向にあると感じている。

やはり、ほとんどの市民は武蔵野市のスポーツ振興について知らないと思う。その意味でも知らせていく、輪をつくっていくことが大事だと思う。

施策のなかにどういう目的、希望があるのか、誰が指導者になるのか、武蔵野市で生涯にわたってスポーツするということ言えば、子どもから大人まで一貫したプログラムがあると良いと思う。

委員長：前回の委員会で、市民全員を対象とするという話だった。ただ、総花的に進めるのではなく、重点的に取組むことも必要ではないかという話から対象者について議論していただいた。

委員：市の施策やスポーツ振興事業団の事業で対象とする年代的な区別はつけていたのか。

事務局：完全にではないが、ある程度年代を意識した施策をおこなっている。例えば、子育てママのスポーツ教室などは、ライフスタイルに合わせて託児なども含めて取組んでおり、市民大会も年齢別でおこなっている。ただ、全体的、体系的にはまだなっていない。

策定委員会ワーキングチームで作成した資料「平成 19 年度スポーツ関連事業調査」をみても、委員長の発言のとおり、市でも様々な事業をおこなっている。スポーツ担当だけでなく、高齢者や児童セクションなどでも多く事業がある。

事業には取組んでいるが、その事業がどう生かされているのか、効果的な情報提供ができていないのか、関係各課で連携がとれているのか、各事業でもリピーター率が高く、裾野が広がりにくいという課題は見えてきている。

体育指導委員について、みんながスポーツに親しむための活動をしている。以前は、『スポーツ振興法』に各市区町村で必置であった。市報での案内やコミュニティセンター通して活動されている。なかなか浸透していないという話はあると思う。

委員長：体育指導委員制度は、昭和 36 年の『スポーツ振興法』のなかでできたもの。発足当初は技術指導だったが、現在求められているニーズはスポーツの企画運営に移っており、スポーツマネジメントに重点が置かれている。

委員：様々なプログラムがあるのは良いと思うが、結局スポーツ教室をやって、スポーツに触れたということで終わってしまっていると思う。なぜ、スポーツをするのかを掘り下げて、あとにどうスポーツ活動を継続させていくか、発展させていくかという視点で教室を組んでいくことが必要だと思う。教室に参加したことがあるだけで、自分で人を集めて何かやろうとした場合にやれないのが現状だと思う。

例えば、本日現地視察した「境南コミュニティセンター」には卓球がたくさんできる場所があり、地域でも卓球が盛んだという情報など、地域ごとにそういう場があれば良い。なぜ、スポーツするかと言えば仲間ができて会話が生まれコミュニティができるから続くと思う。その辺りのきっかけづくりを設備も含めて総合的にみていくべきだと思う。

委員長：拠点化を図るということか。

委員：それも一つだが、どこでいつ何のスポーツがされているかという情報がなければ分からないのが現状だと思う。特に複数メンバーでおこなうスポーツはきっかけがないとできない。あそこに行けばどのレベルでできるとか、個人でも参加できるという情報があると良い。まずはそれが必要ではないか。

委員長：「総合型地域スポーツクラブ」で強調されてきたのはその部分であるが、まだまだ広がりが出てきていないと思う。

委員：仕掛けが必要だと思う。市民が自主的に取組もうとしているところをマネジメント部分でサポートしていくことができるか、情報発信も含めたマネジメントや指導者の充実が必要だと思う。土日以外は指導者がいないのは、どのスポーツでも同様だと思う。人の部分やマネジメントの部分が大切だと思う。

委員長：体育指導委員の方々に、そのようなマネジメントの部分までお願いできれば良いが、本来やるべき仕事も抱えているなか、なかなかできないのが現状だと思う。

委員：この計画を策定する段階で、どの年代に重点をおくかについては、現段階では広い話で捉えて検討したうえで、決めていけば良いと思う。子どもが大人に教える、大人が子どもに教えるなどのつながりも大切である。各関係機関、団体等で様々な取組みがあるが、それがどう横につながっていけるか検討していけたら良いと思う。

委員：スポーツをする人を育てる、指導者の育成・支援の充実が必要だと思う。

委員長：本日は、具体的な意見をいただいた。事務局で整理していただきながら、今後の提案内容について検討していきたい。次回も委員の方々からのアイデアの提出も含めてさらなる意見交換ができればと思っている。

事務局のほうで連絡事項などあればお願いしたい。

(3) その他

事務局：前回、ご欠席された青少年問題協議会の副委員長、本郷委員が今回から出席されている。

事務局：次回策定委員会は、8月26日（火）武蔵野総合体育館大会議室にて、19時からおこなう予定。

委員長：それではこれで、本日の策定委員会を終了したいと思います。

次回、第3回策定委員会の日程 8月26日（火）

・会議 19：00～21：00（会場 武蔵野総合体育館大会議室）

以上